TOHOKU UNIVERSITY
IRIDeS
東北大学災害科学国際研究所

「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害科学概論を実施しました

（2026/10/31）

テーマ：近年の地震被害の傾向と耐震対策技術、地震の起こり方と地震予測の現状、地質データに基づく津波履歴の解明と予測、近年の風水害の傾向と対策、
会　場：web（ホスト：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市））

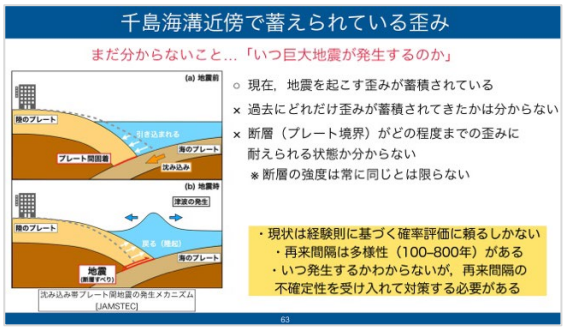
2026 年 10 月 31 日(土)、「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害科学概論をオンラインで実施しました。プログラム履修生 9 名（保健医療従事者）、オープン参加者 2 名、計 11 名が受講しました。実習コーディネーターを務める佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野）が全体進行、榎田竜太准教授（地震工学研究分野）、富田史章助教（海域地震学研究分野）、菅原大助准教授（津波工学研究分野）、関西大学環境投資工学部橋本雅和准教授が講師を務めました。

ふだん病院や消防署、市町村役場などに勤務しているプログラム履修生は地震火山噴火、建物耐震メカニズム、台風・洪水などの水工学、津波の原理・対策など、災害の基本となる学術的な知識に触れる機会はほとんどありません。学際的に災害を学び、多角的視野から災害にアプローチできる保健医療人材の育成が本プログラムの特徴の一つです。榎田准教授の「免震建物だからといって完全に安全なわけではない」、橋本准教授の「堤防があるからこそ洪水ハザードマップが必要になってしまう」などのコメントに、履修生らは他分野との連携の重要性や、防災ハード発展の弊害についても学ぶことができました。

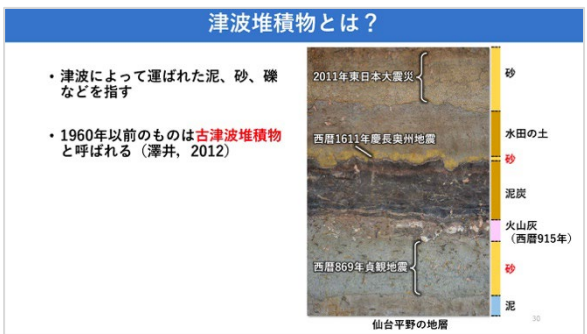
社会の災害対応力を向上させるには、それを実践できる人材育成が不可欠です。当研究所では、このような実践的な研修会を継続して開催していきます。



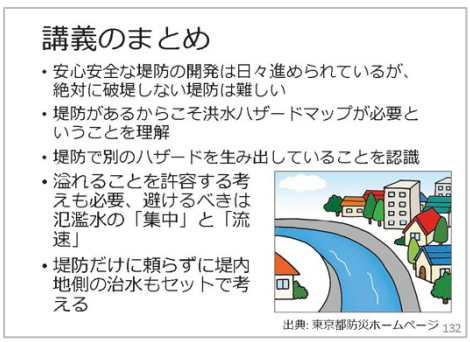
近年の地震被害の傾向と耐震対策技術
（榎田准教授）



地震の起こり方と地震予測の現状
（富田助教）



地質データに基づく津波履歴の解明と予測
（菅原准教授）



近年の風水害の傾向と対策
（橋本准教授）

文責：佐々木宏之（災害医療国際協力学分野）